

第20回 市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成25年12月20日（金）午前10時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（木村経営管理課長） 皆様、おはようございます。

本日は、足元の悪い中に朝早くからおいでいただきまして、ありがとうございます。

円山動物園経営管理課長の木村でございます。

ただいまから、第20回市民動物園会議を開催させていただきます。

今回は、新しい委員の方をお迎えしての最初の市民動物園会議でございます。本来であれば、会議の議長である委員長の選出まで園長の見上りが会議を進行するところでございますが、出張中のため、かわりに私が務めさせていただきます。

なお、本日は、円山動物園を所管しておりますみどり環境担当局長の村山も出席する予定でございますが、市役所で別の会議が入っておりまして、終わり次第、こちらに向かうことになっておりますので、ご了承いただきたいと存じます。

今期最初の会議でございますので、まずは、私も円山動物園の事務局の自己紹介を改めてさせていただきます。引き続き、委員の皆様にも自己紹介をお願いしたいと思います。

改めまして、私は、経営管理課長の木村と申します。市民動物園会議の事務局を所管しております。また、予算等の経理と施設管理を担当しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（小山調整担当課長） 小山でございます。主にイベントの企画調整、戦略的広報を担当しております。よろしくお願いいたします。

○事務局（佐々木経営管理係長） 佐々木です。よろしくお願いいたします。

○事務局（石橋飼育2係長） 石橋でございます。本日は、本来であれば、飼育展示課長の柴田が出席させていただくはずでしたが、出張のため、代理で出席させていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局（岡本） 岡本です。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（木村経営管理課長） このほか、園長の見上、飼育展示課長の柴田が事務局のメンバーでございますけれども、両名とも台湾の台北市立動物園との動物交換に関する用務で現地に出張しておりますので、本日は、まことに申しわけありませんが、欠席いたしております。

続きまして、委員の皆様から一言いただきたいと存じます。

金子委員から順にお願いできますでしょうか。

○金子委員 酪農学園大学の金子と申します。

前回から委員を仰せつかっております。

大学では、コンピューターを使って地図をつくるGISを教えており、エゾシカの被害やヒグマの生息地などを解析しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○河原委員 河原と申します。

今年度、初めて参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○小山委員 前回から引き続きお世話になります。道新文化事業社の小山と申します。

主にステージやプロ野球などの興業を本業としております。よろしく申し上げます。

○高山委員 札幌商工会議所の観光部会長の高山でございます。

観光部会長を仰せつかったのが先週でございまして、右も左もまだわかりません。本業は、さっぽろテレビ塔を運営することです。動物園とはコラボできないかということで、ここ一、二年はアタックしておりまして、こういうご縁をいただき、非常にありがたいと思っております。

テレビ塔には4年半前に来ておりまして、その前は銀行員でした。私は観光部長の経験が浅いので、市民目線で、観光に少し携わっている視点と経済的視点から動物園にとっていいお話ができたかと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○高井委員 北海道大学経済学研究科の高井と申します。

専門は、外国の経済の比較でして、フランス語圏であればフランス本土はもちろん、アフリカやインドシナにも調査でたびたび行っております。こちらでは、去年から勉強させていただいております。よろしく願いいたします。

○成田委員 成田です。よろしく申し上げます。

公募で入りまして、職業は無職という扱いですが、主催事業を先週にやりまして、来場者数200名を超えるものが終わったばかりで、ちょっとぼーっとしているかもしれませんが、よろしく申し上げます。

○牧野委員 皆さん、初めまして。

私は、この動物園のちょうど真裏の円山西町という町内に住んでおります。円山と名のつく住所は我々の町内しかございません。動物園にへばりついている町内でございますので、何か動物園とかかわりたいということで、町内会を代表してまいりました。2期目に入りますが、どうぞよろしく願いいたします。

○矢橋委員 今回初めてお世話になります矢橋と申します。

なりわいは、航空写真測量の北海航測という会社を経営しております。実家が宮の森ジャンプ台の麓にございまして、小さいころからこの辺をうろうろとしておりました。私は40代半ばで独身でございまして、今回は、そういう貴重な市民の声を届けたいということをお願いしたら、選んでいただきました。頑張りますので、よろしく願いいたします。

○事務局（木村経営管理課長） どうもありがとうございました。

本日は、前期から引き続きお引き受けいただいております中山法子委員と新任の八木由起子委員が欠席しておりますので、次回にご紹介を申し上げたいと存じます。

なお、本日は、委員の2分の1が出席しておりますので、市民動物園会議設置要綱に基づきまして、この会議が成立していることをお知らせ申し上げます。

この先は、次第に基づき進めさせていただきます。

2. 議 事

○事務局（木村経営管理課長） 最初に、委員長の選出でございます。

市民動物園会議設置要綱に基づき、会議には委員長を置き、委員長は委員の互選により選出することとなります。そこで、これから委員長の選出をしたいと思いますが、ご意見等はございませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局（木村経営管理課長） もしなければ、前期に引き続きまして、酪農学園大学の金子委員に委員長をお引き受けいただき、その後に議長をお願いしたいと考えますが、皆様、いかがでございましょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（木村経営管理課長） ありがとうございます。

それでは、金子委員、よろしく願いいたします。

議長席へお移りください。

〔委員長は所定の席に着く〕

○事務局（木村経営管理課長） 委員長は、委員会の議長となり、会議を総理し、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代理することになりますので、委員長におかれましては、副委員長のご指名をお願いしたいと思います。

今後の進行は委員長にお任せしたいと思います。

金子委員長、よろしく願いいたします。

○金子委員長 どうもありがとうございます。

ご指名をいただきました。ふなれではありますが、前期に引き続きまして、進行役をお引き受けさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

副委員長は、前期もお願いしておりました高井委員にお願いしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子委員長 よろしく願いいたします。

〔副委員長は所定の席に着く〕

○金子委員長 今回は、第1回目ということで、新しい顔ぶれの皆さんに入っていただきましたので、新しい議論ができるのではないかと思います。今後とも、よろしく願いいたします。

早速、議事に入っていきたいと思います。

まず、平成25年度の来園者状況について、動物園からご説明をお願いします。

○事務局（木村経営管理課長） 平成25年度の来園者状況についてでございます。

A4判横の資料1と書いております表とグラフの資料をごらんいただきたいと存じます。

前期から引き続いての委員の皆様には、8月の会議でご説明済みのところもございませけれども、改めまして、ことし4月からの来園者の状況についてご説明させていただきます

す。

月別の来園者数とその累積数の表でございます。

平成17年度と平成21年度から平成25年度までの資料でございます。平成17年度が載っておりますのは、来園者数が底を打った年でございますので、参考までに掲げているものでございます。

月ごとに見てまいります。年度としては24年度になりますけれども、3月下旬にホッキョクグマの双子を公開したことから、4月は順調に来園者数を延ばしたところでございます。しかし、27日からのゴールデンウィークに入りましてから、悪天候にたたられまして、最終的には前年度に比べての伸びは3.5%にとどまっているところでございます。

5月に入りましても連休期間は雨と低温が続きました。昨年度もゴールデンウィークの来園者数は少なかったのですが、昨年度と比べまして、ゴールデンウィーク期間中の来園者数は18%の減という結果に終わりました。しかしながら、連休が終わりましてから天候に恵まれたこともございまして、持ち直しをしているところでございます。その結果、5月全体での来園者数は13万4,584人で、昨年度と比べて48%の増となっております。

翌6月もこのような流れが続きました。また、天候にも恵まれたことから、11万7,092人となり、6月としてはここ10年で最も多い来園者数となっているところでございます。

7月は、6月と比べますとやや天候に恵まれなかったことから、26%の増にとどまっているところでございますが、平成23年度、平成21年度に次いで来園者数となっております。

8月も前半は順調に来園者数を延ばしていたところでございますが、後半は天候に恵まれない日が多く、前年度比で28%の増でございました。それでも、平成21年度の15万1,523人を超えまして、ここ10年で最高の入り込みとなっております。

7月から8月にかけては、夜の動物園が大変好評でございまして、夜間延長時の入園者数は1日平均で4,833人であり、昨年の夜間延長を実施したときよりも27%増えているところでございます。

9月は12万151人であり、前年度を40%も超える増となっております。9月22日には夜の動物園を実施したこともございまして、1日で1万4,068人が来園されております。

10月は前年度と比較いたしますと24%の伸びにとどまっておりますけれども、10月20日の時点で昨年度の入園者数74万8,321人を上回ったところでございます。10月末時点で76万2,590人となっております。

11月に入りまして、例年、気温の低下とともに来園者数が大きく減ってしまう傾向にございますけれども、これまでを超える順調なペースで多くのお客様にご来園をいただきました。11月の来園者数4万2,884人もここ10年で最も多い来園者数となってお

ります。

今年度のこれまでの来園者数の状況が好調な理由といたしましては、昨年12月にわくわくアジアゾーンがオープンしたこと、また、昨年12月に生まれたホッキョクグマの双子のポロロとマルルの効果に加えまして、夏の夜の動物園、夏休みの特別展として行いましたわくわく蟲ランド、特別企画として行いました、しろくまカフェなどのイベントの充実が考えられると思っております。

累計で見ますと、4月から先月11月までの来園者数は80万5,474人で、昨年同期と比較して35%増となっているところでございます。最終的に昨年度より35%多く来園されますと来園者数は100万人を超えることとなります。しかしながら、平成24年度につきましては、これから以降の時期である12月にわくわくアジアゾーンをオープンしてありまして、来園者数がそこからかなり大きく伸びている状況でございます。表をごらんいただければわかると思っておりますけれども、1月から3月の入園者数はこれまでで最も多い数字を示しております。

したがいまして、年度が終わった段階でこの伸び率のまま終われるかどうかは、まさにこれからが正念場であると考えているところでございます。私どもも、これから3月まで、より多くのお客様においでいただけるよう、さらに努力してまいりたいと思っております。

ここでお願いでございますけれども、委員の皆様におかれましては、ご友人、職場の方など、周りの方に動物園の取り組みを広くお知らせいただき、来園のお誘いをしていただければ幸いに存じます。ぜひ多くの学生の皆さんにもたくさんおいでいただきたいと思っておりますので、委員長、副委員長には特段のご配慮をよろしくお願いしたいと思います。

簡単ではございますが、来園者の状況についての報告は以上でございます。

○金子委員長 どうもありがとうございました。

それでは、この件につきましてご質問やご意見等がありましたら、お願いしたいと思います。

○牧野委員 来園者数がふえていることは非常にいいことだと思いますけれども、先日の新聞にも出ておりましたように、100万人が見えてきたということですね。

これに伴って、町内絡みでいいますと、交通について支障を来していると感じられます。夜の動物園でもそうですけれども、マルヤマクラスぐらまで車が続けてありまして、利用者もいららするだろうと思うのです。そこで、夜であれば球場や陸上競技場の駐車場を使えないかという提案をさせていただきましたが、そんなことも検討されているとは思っています。

これから100万人以上を目指すということであれば、渋滞に並んでしまったらまっぴり動けない、目的地につかなくなります。そして、事故が一番心配されますので、交差するところでは幅員をどうしてもとられてしまうのです。ですから、今後は、人数だけではなく、安全面も考えて検討していただくことをお願いしたいと思います。

○事務局（木村経営管理課長） ありがとうございます。

会長からお話がありました円山球場等の駐車スペースにつきましては、現在、担当しておりますスポーツ部と協議しているところでございます。日中から夕方までは難しい面があるようです。また、夜間も使っている日があるようですが、あいているときに使用させていただけないかどうか、申し入れをさせていただいております。

また、駐車場については、スペースがどうしても限られますけれども、拡張が可能かどうか、財政当局とも協議しているところでございます。そうはいつでも、何百台もふやすことはなかなか難しい状況ですので、まずは、警備の充実をできるだけ図り、近隣の皆様にできるだけご迷惑をかけないような整理をさせていただきたいと思っております。あわせて、JRバス等の公共交通機関とも連携して、バス等へできるだけ多くシフトしてもらう取り組みも進めてまいりたいと思っております。

いろいろとお気づきの点があると思いますので、そのときには何なりとお知らせいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○牧野委員 料金の徴収方法についてです。今は前払いですね。あれを後払いにするだけでも、とりあえず入れるだけ入れてしまう形がとれば、待っている人のいらいらが多少なりとも改善されると思うのです。帰るときは時間的にランダムに出ていきますが、入るときは並んでしまうのです。今は全部が前払いなので、そこで時間がとられているのです。

ですから、とりあえず入れるだけ入れてしまって、後からの料金徴収という方法は、何ほかでも緩和できる要素ではないかと見ております。

○事務局（木村経営管理課長） 機械の仕組みや職員の対応等があると思いますけれども、方策についていろいろと考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○金子委員長 ありがとうございます。

そのほかにいかがでしょうか。

○成田委員 質問です。円山動物園の1日の来場者数のキャパについてです。ゆっくり見てもらうにはこのぐらいの人数が最適というものがあると思うのですけれども、それは何人ぐらいですか。

○事務局（佐々木経営管理係長） 夜は一遍に入ってくることを考えれば、夜の動物園だと5,000人が入ればぎちぎちですね。

○成田委員 先ほど、夜の動物園をやったときに1万人以上が来たとありましたね。

○事務局（佐々木経営管理係長） それは朝からで1万4,000人です。しかし、全然見られないということではありません。夜は、園路を細く歩きますので、同じ5,000人が入っていても、日中の倍ぐらい込んでいるように見えます。日中であれば、1万人ぐらいが入っても割と見ることはできます。

○成田委員 1日トータルで、1万人ぐらいが出たり入ったりしても大丈夫そうだけれども、一気に入るのは5,000人ぐらいが限界ということですね。

○事務局（佐々木経営管理係長） それ以上だとかなり混み合う中で見ていただいております。

ます。過去最高では、平成21年のゴールデンウイークに夜にあげない中で2万5,000人が入っております。そのときは、一番下の円山公園駅から上がってくる人の列が続いておりました。駐車場はすぐに満車になっておりました。

○牧野委員 今シーズンの夜の動物園は不満があるみたいですね。人が多くて、ゆっくり見られないのです。いろいろなイベントをやっておりましたから、その関係があったのだと思います。ただ、もうちょっとゆっくり見たいという声がありましたね。

○成田委員 私は、ゆっくり見られるのが前提で遊びに来るので、できるだけ人のいなさそうな時間帯を狙います。夜は混んでいると聞いているので、一回も来たことがないのです。ですから、今お話があったように、ゆっくり見られないという不満が募ると、私みたく、そこへは行かなくていいやと思う人がふえてしまうと来場者数に響いてくると思うのです。また、どうせ行っても見られないとなると、来場者数はどんどん下がっていったと思うので、その辺の対策をどこかでとっていかなければいけないと思います。

○金子委員長 100万人を目標のように掲げて、達成したらすごく素晴らしいというイメージで話されていますけれども、それに伴っていろいろな問題点がありますね。皆さんからお話にあった車の問題もそうです。実際の利用者が不便になる部分などもいろいろと出てくるように思います。ですから、その辺の検討をぜひしていただいて、100万人が入っても素晴らしい動物園だと皆さんに言ってもらえるような形になればベストかと思います。

○矢橋委員 この会議が始まる以前に園内を歩いたのですが、朝にもお客さんが割といるのですね。

○事務局（木村経営管理課長） 全体から見れば、朝は比較的ゆっくり見られる時間帯だとは思いますが。

○矢橋委員 先ほどの2万5,000人というのは何が要因だったのですか。

○事務局（佐々木経営管理係長） 21年に初めてホッキョクグマの双子が生まれ、公開になり、連日テレビに出ました。また、こどもの日で、気温が22度から23度と条件が重なりました。さらに、連休の中日でした。たしか、最初の1時間で6,000人が入りました。これは、すごい入り方でした。券をさばく限界となり、入り口の券売では木道のところまでお客様が並んでいたと聞いております。

○金子委員長 そうなると、シロクマは見られない状況でしたか。

○牧野委員 そうですね。

○事務局（佐々木経営管理係長） 完全入れかえ制で、警備員をつけて、5分で何十人かを入れてかえていって、50分待ちという感じでした。

○牧野委員 そういう意味では、今言ったとおり、中でゆっくりしたいのに、駐車場のところで30分や40分かかってしまうのです。それを緩和することが大事です。今は車社会だから、やっぱり車で来られます。そういう根本的なことを解消していかないと、せっかく行ってもお父さんが嫌になってしまうと思います。帰るにも帰れないことにもなり

ますから、リピーターにつながらないので、早急に緩和しなければいけないと思います。

○成田委員 先ほど言っていた公共交通機関の促進についてですが、バスで来た人へのメリットがあればいいですね。バスと入園券のセットにするなどですね。ただ、市民だとパスポートを持っている人がいると思うので、そこは微妙ですね。ただ、バスで来た人にそういうメリットがあるといいかなという気がします。

今おっしゃっていたみたいな渋滞になると近隣住民は道路を通れなくなってしまいます。そして、近隣住民から、あそこがまた何かをやり始めたと言われてしまうと、地域に好かれる動物園ではなくなってしまうので、そういうことを一緒に考えていきたいと思います。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、議題2の来園者数についてはよろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 もし何かあれば、最後にご意見等をいただければと思います。

次に、議題3の平成25年度冬のイベント事業について、ご説明をいただきたいと思います。

○事務局(小山調整担当課長) 資料2と一緒に、こちらのパンフレットをごらんください。

(1) クリスマス関連です。

まず、あさっての12月22日に「クリスマス・スペシャルナイト」を行い、開園時間を20時まで延長します。先ほどからお話がありましたけれども、ジェイ・アール北海道バスにご協力を賜っております。

次に、「動物たちにエサのクリスマスプレゼント」です。12月23日、小学生以下限定というものです。

次に、「サンタさんに会いに行こう！」です。土曜日から来週のクリスマス当日までです。役職者が交代でサンタに扮して、午前と午後1回ずつ園内を歩きます。

次に、「恋人たちのクリスマスナイトZOO」です。12月23日に男女カップル20組40名にいらしていただきます。

次に、(2) お正月関連です。

正月三が日は、入園料無料とします。1日はジェイ・アール北海道バスにご協力をいただきまして、円山動物園の正門停留所まで運行していただきます。その3日間は、競走馬の蹄鉄と当園で飼育されている馬の毛をラミネートして、それぞれ各日先着1,000個を無料でお渡しします。

4日は、へび皮をプレゼントいたします。これも先着1,000個です。

5日は、「ちびっこ餅つき体験・おしるこ無料配布」を行います。おしるこは先着500名に配布します。

12日は、「雪中ジャンボカルタ大会」です。小学生以下限定で、動物に関するカルタ大会を外で行います。

また、今もやっておりますけれども、干支の特別展示です。1月31日金曜日まで行います。

(3) のスノーフェスティバルです。

これはチラシには書いておりませんが、改めてチラシをつくりたいです。雪まつり期間に合わせて、2月5日水曜日から11日火曜日の祝日までです。この期間中の入園料は無料としまして、第一レストハウス前に氷の滑り台をつくりたいです。また、小雪像もご紹介します。昔に円山動物園にいて、今いなくなった動物を雪で再現しようということで、何かを設置いたします。そして、雪の迷路をつくりたいです。

また、2月8日土曜日には、「ファンタスティクナイトZOO」を行い、開園時間を20時まで延長する予定でございます。

続きまして、これらに関する広報についてです。

ここには書いてございませんけれども、今月1日からANAの札幌行きの国内便の奇数便で、北海道特集を流していただいております。これは全体で25分ですが、そのうちの10分ぐらいが動物園の話題です。

それをごらんいただきたいと思っております。

[映像の上映]

○事務局（小山調整担当課長） この映像は、今月からANAの国内線の北海道行きの奇数便、そして、来月1日から国際線でも見られるということです。

それでは、説明の途中ですけれども、局長からよろしく願いいたします。

○事務局（村山みどり環境担当局長） おくれて申しわけございません。

みどり環境担当局長の村山でございます。よろしく願いいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しいところいろいろとご協力をいただき、ありがとうございます。今回、新たに委員になられた方がいらっしゃいますが、よろしく願いいたします。

きのうも内部の拡大局長会議という市長と全局長が集まる会議でも動物園をPRしてまいりました。三が日は北海道神宮に行かれる方がたくさんいらっしゃるという話から始まり、動物園は1日から3日までは入園料無料で、ちょっと足を延ばすと動物園に行けますので、ぜひ行っていただきたいとお願いしてまいりました。

ことは、100万人が少し見えてまいりました。しかし、単純に予想すれば95万人ほどですので、もう一つ二つは、てこ入れをしなければならないと求めているところです。桁の違う100万人を目指して我々も頑張っておりますので、皆様から忌憚のないご意見をいただき、いろいろとご支援をいただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

○事務局（小山調整担当課長） 引き続き、2の広報についてです。

広報さっぽろ12月号に見開きで動物園を紹介させていただいております。

そして、動物園だよりです。こちらを18万部発行しております。

また、チラシは、少し離れた近隣の2万6,450世帯にポスティングをしております。

そして、スマートフォンアプリ「シュフー！」です。これはパソコンでも見られます。

こちらの電子チラシは、12月28日から見るができます。

このチラシを5,000部、ポスター1,300部を作成配布しております。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、冬のイベント事業等につきまして、何かございましたらお願いしたいと思えます。

○高山委員 スノーフェスティバルについて教えていただきたいのです。期間中入園料無料が2月5日から2月11日とありますが、まさに雪まつりの期間ですね。これは毎年無料になさっているのですか。

○事務局（小山調整担当課長） 去年は無料でした。

○高山委員 動物園に来るのは市民の方が多いと思うのですが、私どものところではほとんどが観光客です。手前どもでは、雪まつりの週は1週間で1カ月分の売り上げがあります。観光客に、もしたくさん来ていただくということであれば、無料期間はすごくいい売りになると思いますので、どんどん広めていただければと思います。

○金子委員長 無料期間に向けての宣伝を新たに行うことはありますか。

○事務局（小山調整担当課長） ことしの冬の動物園のチラシもそうですが、今年度は、特に広報面には力を結構入れております。職員一人一人の草の根みたいところで、知っているところにどんどんポスターやチラシを置いてもらっております。

それから、高山委員のお話とは別かもしれませんが、まだアイデアレベルですけれども、雪まつり期間中、テレビ塔の1階のところでマルヤマンとテレビ父さんと一緒にショーができないだろうかという話を事務レベルでさせていただいております。

○事務局（木村経営管理課長） 高山委員がおっしゃられたように、この期間を無料にして、札幌市外や海外の方を含めまして、観光客の方にいただきたいということが無料の一番の目的でございます。そのためにもどのような広報や宣伝の効果があるかをこれから考えていきたいと思っております。

また、去年はジェイ・アール北海道バスに都心から連絡バスを運行していただいているのですけれども、今回につきましてもお願いして、渋滞の緩和と都心にいらっしゃっている観光客の方にお越しいただきたいということで進めているところでございます。また、チラシはホテルにも置いております。

○牧野委員 今回、ばんけいスキー場とは連携するのですか。

○事務局（木村経営管理課長） 冬期間は本業のスキーの関係でなかなか駐車場の協力は難しいということです。ですから、かわりにジェイ・アール北海道バスは、有料ですけれども、バスを都心から運行してもらえればよろしいかと思っているところでございます。

○事務局（小山調整担当課長） 三が日、特に元旦、初詣は、ジェイ・アール北海道バスが運行しますという広告を年内に出させていただきます。

○牧野委員 まずは、天候が左右しますが、こういう色々な打ち出し方をしていますから、それを徹底すればいいと思います。

○高山委員 我々の施設は、道外の旅行会社への売り込みのため、東京、大阪、名古屋、東北方面の旅行会社に担当者が回って歩き、北海道のツアーをつくる時に手前どもの施設を組み込んでくださいということを年に2回ぐらいやっております。ここ二、三年前からは、テレビ塔のパンフレットだけを持っていても仕方がないということで、オール札幌でロープウエーや開拓の村のパンフレットを持っていております。

要は、うちだけで売り込んでも時間的にもったいないから、ことしの春に動物園のパンフレットを持たせました。東京、大阪、名古屋には50カ所ぐらいの旅行会社があるのですけれども、そこに売り込んでおります。どうしても動物園となると、旅行会社の人は旭山動物園を見ておまして、旭川で動物園を見て、札幌でもまた動物園かという目線で見えておまして、旅行のツアーになかなか入れてもらえないのです。

しかし、今初めて知ったのですけれども、雪まつりに無料というのは旅行会社にすごく大きなインパクトになると思うのです。ですから、ぜひ呼び込みたいのですけれども、もし来年、再来年もやるのであれば、我々が行ったときにどンドンアピールできますので、そんな形で観光客をふやすことができるのかと思っております。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、私からです。

今、札幌には海外から、特に東南アジアからのお客さんが物すごくふえておりますが、動物園も海外のお客さんは大分ふえているのですか。

○事務局（木村経営管理課長） 時期的にカウントをするようにはしているのですけれども、通年ではしておりません。前回もそういうお話があったのですけれども、正確ではなくてもカウントできるように調整しているところです。

確かに、園内でも外国語を話される方は、ちらほらとおります。特に冬場になってきますと、全体の入園者が少なくなってきますので、若干目立つ状況ではあります。しかし、海外の方が1割どころか5%という数字には全くなっていない状況ですので、その辺を掘り起こすのが大変大事なことだと思っております。

○金子委員長 冬場は、タイなどからお客さんがいっぱい来ているみたいですので、そういうところのプログラムにうまく入ってしまえば、皆さんは必ずやってくるのではないかと思います。

○事務局（木村経営管理課長） 神社で写真を撮ること自体を日本人は余りしないのですけれども、通勤のときに神社敷地や円山公園を歩いていると、アジアの方だと思いますが、写真を撮っている外国人の方が結構いらっしゃいます。その方たちが動物園にそのまま足を延ばしていただければと思います。ここまでは来ているのですけれども、あと1キロメ

ートル弱をどうやって来てもらうかを考えなければいけないと思っています。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

議題4のフェイスブックの実施状況についてご説明をお願いしたいと思います。

○事務局（小山調整担当課長） 資料3の横長のものをごらんいただきたいと思います。

一番右側に、これまでの市民動物園会議の経過を示してございます。

本年度に入りまして、5月、8月に会議を開催し、8月30日にフェイスブック「円山動物園+（プラス）」を開設したわけでございます。

真ん中が3カ月運営した実績です。今、「いいね！」が402だったかと思います。アクセスが多いのは12時台、20時台、21時台で、炎上や悪意の書き込みは今のところはございません。どちらかというと、中年層に拡散しております。また、歴史などの過去の記事はあまり見られておりません。

先月、11月15日に札幌市全体の広報を統括する広報課と協議しまして、フェイスブック「円山動物園+（プラス）」の開設の経緯と目的を話し、市民動物園会議の融資が管理運営していることや実績を説明してまいりました。

11月15日の協議時点で「いいね！」が355まであり、徐々に「いいね！」がふえており、炎上などは発生していないこと、当初は若年層をターゲットとしましたが、主に中年層に拡散していること、また、閲覧した人同士でのコミュニケーションを期待していましたが、今のところ、ほとんどありませんというお話をいたしました。

これに対して、広報課からの意見です。フェイスブックはやめて、ホームページのサイトだけで十分だということでございます。フェイスブックにはホームページの内容をそのまま載せているだけではないかということです。情報が重複することが悪影響を及ぼすことがあるそうです。一昔前は一つの情報で複数の使い方をすることが主流でしたけれども、ブラックサイトがあり、グーグルやヤフーではそういうものを探し出して、外すようになってきているそうです。ですから、形式的に見たら、いろいろなところから情報があるのですけれども、下手をすると、グーグル検索をしてもヒットできない状況になるのではないかという危険性もあるという助言をいただきました。

そして、円山動物園の公式サイトにもフェイスブックの「いいね！」ボタンとツイートボタンがありまして、あえてフェイスブックに登録しなくても旬な話題は勝手に広まる仕組みになっております。ですから、市民から盛り上げていくというスタイルで運営していくのであれば、実際に来てどうだったかという市民の生の声が投稿されるべきではないかということでした。したがって、このままホームページの内容を投稿するだけのスタイルであれば、フェイスブック「円山動物園+（プラス）」は試行段階でやめたほうがいいのではないかという意見でした。

私どもは、これに対しまして、試行として3カ月運営してきたのですが、3カ月だけで判断するのはどうかということで、結論はペンディングにしております。もともと

このページは札幌市のものではないものですから、市民動物園会議に相談させてくださいとしております。ただ、感想ですけれども、市民目線という立場からアップしていけばもっとおもしろいツールになり得るのではないかと考えております。

そこで、ご提案ですけれども、市民動物園会議のメンバーでフェイスブック登録をされている方から積極的に投稿していただけないだろうかということです。それに加えて、委員の皆さんでフェイスブックページを持っていらっしゃる方を管理人に登録させていただきたいと思っております。バックにフェイスブック準備会のページがありまして、そこに登録させていただきませんか。

以上、フェイスブックに関しての提案でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、私から補足させていただきます。

円山動物園のオフィシャルホームページは当然あるのですが、それは動物園から情報を発信するというお知らせがメインになるので、もう少し周辺領域で、円山動物園だけではなく地域のこと、また、来たお客さんが見た感想なども含めて情報の交換が広い意味でできればいいのではないかと提案があり、市民動物園会議が窓口になって、「円山動物園+」というフェイスブックを立ち上げ、プラス領域をつくりましょうということで始めました。しかし、今、3カ月がたち、まだ十分に広まっておりません。そして、双方向の市民レベルの情報提供がまだありません。また、リアルタイムの情報発信が余りありません。ただ、方向性としては、もう少し進めながら、来たお客さんたちがここで今何が見えるということも含めて発信できるようなフェイスブックになっていけば、当初に想定していた目的に近づけるのではないかと考えています。

そこで、皆さんからご意見をいただきたいと思っております。

○矢橋委員 私もフェイスブックは使っておりますし、先生にもお友達になっていただいております。随分と使っているほうです。私もページを持っておりますが、3カ月で400件というのは、非常にテンポよくふえているのではないかと考えております。ですから、閉鎖というのは極論ですが、引き続きやっていく価値があるのではないかと考えています。

また、今もちらっと出ましたが、1回の投稿につき「いいね！」が30前後ついているということで、それだけ見ている人がいるのであれば可能性は広がるのではないかと考えています。話を聞いて初めてわかったのですが、市民動物園会議の委員が投稿してもいいのですね。それであれば今後ぜひ投稿させていただきたいと思っております。

私は、今も朝の動物園の風景をフェイスブックに投稿しておりますが、これは私のページを見る人しかわからないのです。そうであれば、「円山動物園+（プラス）」にアップしておけば、朝の動物園はこんな感じだったのかということがわかるわけです。そういうことで、PRもどんどんできます。

また、この間、お茶を飲みに行きました。実は、私は裏千家の先生なのです。ご提案しようと思った矢先にそういうことをしてくれたので非常に悔しい思いをいたしました。お

茶を飲んでいますということをフェイスブックにアップしておきました。そういうことを広めれば、動物園でお茶が出るのだということで、知らない人もどんどん来るのではないかと可能性があるのではないかと思います。

○金子委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○成田委員 フェイスブックの「円山動物園+（プラス）」はホームページではないですか。私はちらっとしか見ていないのですけれども、投稿できるのは管理者や権限のある人しかできないページだと思うのですが、違いますか。

○金子委員長 誰でもできるのですけれども、投稿した人は別なウィンドーに出るのです。それは、その人と友達関係を持っている人しか全部を見られないのです。例えば、成田委員や私などが投稿しますと、読書の投稿のようなところに記事が出るのです。それを管理者側が「円山動物園+（プラス）」に持ってくる、いわゆるシェアをすると、フォームに出るのです。ですから、「金子さん、どうもありがとう」とやり、そこに「いいね！」を押した人が見られるようになるのです。ですから投稿はできるのですが・・・。

○成田委員 その後に管理者で設定すると、みんなが見られるのか、「いいね！」を推した人だけなのか、私や金子議長の知り合いだけが見られるのかどうなんでしょう。

○金子委員長 「円山動物園+（プラス）」に成田委員が投稿をしても、成田委員の友達しか見られないのです。投稿したという事実はあるけれども、開けないはずですよ。ですから、たとえば自分で金子の名前で投稿するでしょう。そうすると、読者の投稿になります。それを僕が管理者に名前を変えてシェアをするとみんなが見られるように引き上げられるのです。

悪意の投稿があれば削除するのですけれども、もし投稿があってもオフィシャルな投稿として扱われないので、バッファが一つあるのです。ちょっとマニアックな話で申しわけありません。

○矢橋委員 皆さんを管理者に指定すればいいのですね。

○金子委員長 そうですね。皆さんが管理者になり、管理者の立場で出せば、フォームのところに全部の内容が出るのですけれども、個人の名前で出すと、ページの横に出ています。ですから、管理者に切りかえて、拾い上げるのです。

○事務局（小山調整担当課長） 前の公募委員でフェイスブックページを持っていらっしゃる方も管理者から外しておりません。これは私が勝手に外すことはできませんので、相談しなければいけないものです。

今の管理者は、市民動物園会議の旧委員、そして、金子委員長と高井副委員長です。

○矢橋委員 とりあえず、今の委員の皆様方を管理者に指定していただければ、アップできるのですね。

実は、私は北海道ザンギ連盟を経営しております、そこでもフェイスブックページを持っております。そこでは、道ザン連の会員が全員管理者に指定されております。ですか

ら、ここのザンギはおいしかったと勝手にアップしてくれるのです。

話はそれですけれども、先ほどのグーグルでの検索の話についてです。道ザン連のフェイスブックも広めようと思ってつくったわけではないのですけれども、どこかから閲覧者が入ってくるのです。それで道ザン連の集まりがあるということを書いたところ、誰の友達でもない人から私も参加していいですかということがたまに来るのです。ですから、グーグルに載る載らないは別だと思います。

○金子委員長 それでは、ご異論がなければ、フェイスブックについては、どんどんアピールする、拡散する方向でやってはどうかということをお聞きしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子委員長 その上で「いいね！」を押してもらう人をふやすためにどうしたらいいか、アイデアを出していただければと思います。

実は、私の話ですけれども、学生が全国の動物園でフェイスブックやSNSがどういふふうに使われているかについて卒業論文で取り組んでいるのです。そこで、円山動物園にもあるのですよと僕に言ってきたので、私も関係していますと言いましたら、えっ、先生がやっていますかと驚かれました。全然知らないで調べていたみたいでした。

その彼女に、来るお客さんにこういうものもやっていますというチラシを配っていただくなど、アナログ戦略も必要なかと思います。デジタルで拡散してもらうこともありますが、ここでご了解をいただければ、アナログ戦略として、チラシなどに市民動物園会議フェイスブックをつけていただければと思いますが、どうでしょうか。

○小山委員 私も自分のフェイスブックのつながっている人たちに紹介を送ろうという作業をしております。

○金子委員長 それでは、広報活動も含めて積極的に取り組みましょうということをお聞きしたいと思います。よろしいでしょうか。

○高井副委員長 ほかのところでのグットプラクティスみたいなものを教えていただければと思います。こうやるとうまくいっているのかという例が一つでもあるといいですね。

○金子委員長 それでは、その辺も調べさせてもらい、次回に報告したいと思います。

○高井副委員長 我々が書き込むときに空気を読んでいない変なものを書いたらどうしようと不安になるところがあるので、例があるとうれしいですね。

○金子委員長 わかりました。ぜひ広報課にもそういうお答えをお願いいたします。市民動物園会議では、もう少し頑張って、さらに広報活動もやってみますというお話になりましたと報告していただけますか。

○事務局(小山調整担当課長) ただいまのご意見を頂戴しまして、広報課と改めて協議させていただきますと思います。

○事務局(木村経営管理課長) 積極的にPRさせていただきますと思います。

○金子委員長 皆さんも、ぜひ積極的なPRをお願いしたいと思います。

○河原委員 いいですか。

フェイスブックを進めていくことはいいと思うのですが、昔ながらの意見箱や要望箱などをお願いいたします。

○事務局（小山調整担当課長） わかりました。

○金子委員長 ありがとうございます。

次に、議題5のアニマルファミリー制度の見直しについてご説明をお願いいたします。

○事務局（小山調整担当課長） 資料4の横長のものをごらんいただきたいと思います。

アニマルファミリーという制度が円山動物園にはございます。これは、広報のとおりに書きますと、選択した動物をあたかも家族のように愛着を持っていただくという趣旨で、ファミリーである支援者が餌代等を支援、寄附する制度です。私の動物を動物園に預かってもらっている、私の動物がいる動物園に会いに行くというような入園者と動物園の新しい関係性の変化を提案したものです。

上にありますように、平成20年度から始まりまして、高校生以上、個人1口5,000円、中学生以下、個人1口2,000円、法人、団体、グループとあり、グループというのは家族や友人の集まりなど、3名以上の個人の有志の集まりでして、1口1万円となっております。

現在、ホッキョクグマのララ、チンパンジーのレディ、オランウータンの弟路郎、ライオンのリッキー、レッサーパンダのココ、カバのドン、マサイキリンのナナコの7個体が対象になっております。

現在の有効会員は756口で、約440万円の寄附を頂戴しております。

下に書いてありますけれども、アニマルファミリー特典ということで、会員証を発行しております。グッズを買うときに10%引きになります。また、アニファミ通信を担当が書いてありまして、毎月発行しております。そして、誕生会、感謝デーなどのイベントを年2回、それぞれの個体ごとにやっております。

この制度は平成20年度から実施され、設立してから5年が経過して、動物支援の意識の醸成の一定の役割を果たしたのではないかと考えております。また、昨年、シンリンオオカミのキナコが死亡しました。これもアニマルファミリーの対象個体でありました。そこで、加入していた会員が大量に退会となりました。また、まだわかりませんが、妊娠しておりますホッキョクグマのキャンディをどうするかなど、課題も見えてきているところでございます。

そこで、この制度を変えていけないだろうかと考えております。個体ではなく、私たちのまちにある動物園をみんなで支えて、みんなで作る動物園にするということで、円山動物園の基本構想に最終的に「市民が支える動物園といたします」ということが載っております。ですから、三つの黒丸に書いてありますけれども、動物園の動物は「私の動物」ではなく、市民全体のものであり、言ってみれば地球全体のものであって、種の保存のために地球全体で移動しますし、円山動物園はその一つの間であります。今まではアニマル

ファミリーに支えられてきましたけれども、今後はより多くの市民の方に種の保存という環境保全の活動を支えていただきたいと考えております。また、動物は一個体だけでは暮らしてはいけません。家族や仲間、環境があって生きていけるものです。今までは一個体に対する会員として寄附の募集をしましたがけれども、今後は種の保存活動、その環境をつくらせている円山動物園のサポーターになっていただきたいと考えております。あわせて、サイエンZOOなどのイベントをやっておりますけれども、動物の行動、環境や食に関するイベントのご支援を願いたいという考え方で、新しい仕組みづくりに取り組んでいきたいということです。

具体的な制度設計は、これから考えていきますけれども、こうした考え方で制度変更を進めてよろしいかどうか、お諮りするものです。

○金子委員長 ありがとうございます。

これについては、先ほどのフェイスブックとはちょっと違います。

フェイスブックについては市民動物園会議の発案で、市民動物園会議が運営することについて皆さんから意見を伺いました。こちらは、動物園の事業として、それについて市民動物園会議の委員の皆さんからご意見やアドバイスをいただくというスタンスになるということです。ですから、ここでいい悪いを決めるわけではありません。動物園のご提案に対していかがでしょうかというスタンスで皆さんからご意見などをいただければと思います。

○矢橋委員 私は、ホストペアレントと言い、アフリカの子どもに毎月幾ばくか送ることをやっていましたが、それと似たようなイメージを持ったのです。非常におもしろい制度の割には初めて知りまして、もったいないという思いがあります。また、この（仮称）マルヤマサポーターもおもしろいと思うのですけれども、種の保存という結構大きな話なのです。最近、NPOやNGOのしっぽの会など、殺処分前の動物を守ろうという運動が随分盛り上がりまして、そちらと路線がかぶる可能性があるのかと思います。ですから、動物園独自の制度確立をうたったほうが独自性があっていいと思いました。

○事務局（木村経営管理課長） 今のアニマルファミリー制度の見直しについて、具体的にこのようなシステムに変えるというものは動物園としてまとまっていない状況でございますので、忌憚のないいろいろなご意見をいただき、それを踏まえまして形づくっていきたいと思っております。

また、今回の見直しの大きな一つとして、アニマルファミリー制度では会費が1口5,000円とかなり高額です。そのため、会員の数がなかなかふえません。もっと多くの方に動物園、動物により関心を持っていただくために、1口の金額を抑えて、より多くの方に参加していただく仕掛けができないというのが大きな意図でございます。ですから、その辺も踏まえましてご意見をいただければと思っております。

○成田委員 これは、会員の募集であり、寄附ではないのです。

○事務局（小山調整担当課長） アニマルファミリー制度は、寄附です。

○成田委員 今、寄附に関する税制が改正されて、3,000円以上だと税優遇があり、それに入りますね。そちらの話もどこかで打ち出して、マルヤマサポーターにするかどうかをやられたかどうかと思います。特に、もうかっている企業の話ですけれども、そういった要因が大きくなる場合もあります。

○事務局（小山調整担当課長） 委員のご指摘のとおりだと思います。今は寄附で、税控除の対象になります。実際に手続的にも寄附の申出書、寄附受理書を発行しております。

話が脇道にそれますが、今進めております基本計画では、平成28年度にアニマルファミリーは市民の1%の2万人に会員になってもらおうということがあります。そのときに、先ほど木村からお話をしましたけれども、2万人が3,000円を出すだろうかと考えました。これは全然わからないのですが、もうちょっと敷居が低くてもいいと思っております。

寄附では、税控除のため、少なくとも寄附受理書を、幾らの金額であっても出さなければいけません。2万人に対して寄附受理書を出すコストがどのぐらいになるのかということもありまして、制度設計上、非常に悩ましいと認識しております。

○矢橋委員 企業寄附と個人寄附では異なるのでしょうか、例えば、さぼりとほっと基金を使って受理書の事務的作業は市民まちづくり局にということにはならないのですか。

○事務局（小山調整担当課長） そういう手はあります。

○事務局（村山みどり環境担当局長） ご意見は賜って、検討していきます。今は答えが出せない状態です。

○金子委員長 新しい制度については、平成26年度に試行的に募集を開始するのですか。

○事務局（小山調整担当課長） それは、まだ決めておりません。ただ、平成27年度から本格開始となりますと、平成26年度に何かをしなければいけないのかなという程度の認識です。ただ、寄附なのか、会員なのか、制度をどうするかはこれからの検討です。

○事務局（村山みどり環境担当局長） 4月1日からやることを意識しておりませんので、検討させていただき、形ができて、皆さんに具体的にお見せして、それから始めたいと考えております。

○金子委員長 それでは、アニマルファミリー制度はとりあえず一旦終了させたいということについて、皆さんからご意見があれば伺い、差し支えないということであれば、マルヤマサポーターについてのアイデアをお持ちの方は動物園にメールなり何なりで出させてもらい、次回に制度設計など、新しい制度についてお話をさせていただき、その後に試行的に開始するということですね。

それでは、アニマルファミリーを終了させることについてご意見をお持ちの方がいらっしゃればお願いいたします。

○小山委員 意見というより、感想に近いのですけれども、今おっしゃったように、運営上、理念も含めて、動物が死んでしまったら一種のペットロスみたいなことを参加した方

が感じられる部分もあるのでしょうかね。

理念としては、新しい制度は立派なことだと思うのですがけれども、逆にいえば、アニマルファミリーのように、思い入れのあるもののほうがインパクトはあるのです。理念が立派で、誰もが文句を言わない制度にはお客さんはなかなかひっかかってくれないのです。ですから、広く集めようというときに、立派で、誰もが非がないと思うものには余り参加してくれないのではないかという危険性があるのではないかと思いました。

○金子委員長 ありがとうございます。

○牧野委員 できた経緯がいろいろとあったと思うのですがけれども、アニマルファミリーは弟路郎から始まっていますね。動物園に行ったら全部を見たいというのはわかるのですがけれども、人によっては、ここだけに思い入れがあるということもあるのです。写真を撮っている方を見ていると、この方はこれが大好きなのだろうなと思える方を何人も見かけますけれども、そこからの発想だと思うのです。動物園に行ったら、とにかく、そこに行くのだという思い入れのある人にアニマルファミリーになりませんかというスタートだったのです。ですから、マルヤマサポーターに変えるのは、違った意味合いが出てきますね。動物園が考えているサポーターとは、広く浅く、手を広げていきたいというもので、アニマルファミリーはちょっと違って、絞って、ピンポイントでその動物が大好きだという方を募集した経緯だと思うのです。ですから、これは似通っていますが、違うという思いです。

本来であればマルヤマサポーターから発足して、その後にアニマルファミリーが欲しいという流れになるような気がします。この動物が大好きで、そのために餌代を寄附するという経緯があったので、新制度への移行は逆行しているような部分があります。ですから、この辺はもっともんでいかなないと混乱が生じるような気がします。

○河原委員 私も、この制度についてはよくわからないのですが、移行するにしても、アニマルファミリーにもいい点があったと思うのです。ですから、いい点とこれから生かせるところを組み合わせれば理想なのかと考えます。

そして、これは一市民の感想ですが、アニマルファミリーの特典だったようでも、新しいもの変わっていくとしても、この特典だったら私は入らないと感じます。もうちょっとお得感みたいなものを考えてしまいます。それが正直な感想です。特典はつられてしまう大きな要素ではないかと思います。

○金子委員長 単に寄附するだけの形になってしまうと、人数をふやすのは難しいのかと思います。その辺も含めて、皆さんから出てきた意見を事務局で検討していただき、次のときに案を出していただきたいと思います。あるいは、次までに皆さんから意見があれば送っていただくということでもよろしいでしょうか。

○高井副委員長 現行のアニマルファミリーは発想としてはおもしろく魅力的ですがけれども、動物園という職員組織で対応するには負担が大き過ぎたのかという気がしないでもありません。ビジネスの世界でいうと、AKB48の何とか推しというアイドルマネジメン

トと同じ戦略だと思うのです。アイドルのマネジメント会社と同じぐらいのマネジメント力が要求されて、また、熱心なファンができるけれども、マネジメントは非常に難しくなります。これは動物園の業務とは質が違う能力が要求されるような気がするのです。ですから、組織として対応するときには、組織へのサポーターという形にせざるを得ないのかというふうに思いました。

次回という話だったのですけれども、思いついたことが三つあります。

一つ目は、そこに協賛団体のパネルがありましたね。企業への寄附と個人の寄附を場合によっては接合する、あるいは別制度にして、大型寄附で名前をちゃんと示していく方法があります。それは、K i t a r aホールでもやっております。

二つ目は、パスポートの話がありましたけれども、その中でランク、レベルをつくって、ゴールドパスポートやシルバーパスポート、サポートパスポートなど、光ったり、デザインが変わるなど、そういうパスポートの種類で、サポートをする人に対して年間入園無料にプラスアルファをつけるのです。

三つ目には、東京都の公園管理でやっている思い出ベンチです。それは、動物ではなくて、ベンチにプレートをつけて、ベンチを新しくするときにはプレートの部分に名前やメッセージを任せるかわりにベンチの改修代を出してもらうのです。20万円や30万円だったと思うのですが、そういうものになると、アイドルを管理するような大変なものにはならず、もっとうまくいくのかと思います。実際に東京都でやっているので、税制上の問題や行政上の問題もクリアされている前例があります。アメリカの大学では、全部がそうです。噴水も道路も何にしてもみんなにプレートがついており、寄贈を受けております。ですから、動物園に思い出がある人はそこへ行って、これは私がやった何とかだとなると、うれしいかもしれませんね。

○金子委員長 ありがとうございます。

今、高井副委員長からお話が合った点も含めて、次回に検討できればと思います。

次に、議題6の新着動物等についてご説明をお願いいたします。

○事務局（木村経営管理課長） 新着動物につきまして、飼育展示2係長の石橋からご説明させていただきます。

○事務局（石橋飼育展示2係長） 動物の移動についてご報告を申し上げます。

夏以降も動物の移動がございました。

8月25日にエランドが女の子を出産いたしました。

9月9日にチリーフラミンゴという種類がふ化いたしました。昨年も1羽がふ化しておりますが、ことしはこの個体を含めて、チリーフラミンゴ、ベニイロフラミンゴ1羽が孵化しております。順調に繁殖が行われております。

9月30日、コツメカワウソの雌がアドベンチャーワールドから転入いたしました。もともとペアで飼っていたのですが、ことしに雌が亡くなり、後釜という形で新しいお嫁さ

んが来ております。

10月になりますと、アカハナグマが転入いたしました。北京動物園との動物交換があり、チンパンジーのチャー坊が転出したかわりに、2頭のアカハナグマが来ました。

10月末に千葉市動物園公園からアサギと言うクロザルの雄とエイタと言うシセンレッサーパンダが転入しております。

11月に入りまして、4日にスローロリスが出産いたしました。しばらくの間、カンガルー館を閉鎖して様子を見ていたところでございます。また、11月18日にハイロカンガルーの赤ちゃんの出生確認をいたしました。生まれたときは1グラムぐらいしかないものですからわからないので、初めて袋から顔を出したものを飼育員が見たということになります。

また、こちらの一覧からは漏れてしまっているのですけれども、12月4日に広島安佐動物公園からマレーバクの雄が転入しております。アジアゾーンに入っております。

一方で、転出もしくは亡くなった動物です。

9月にサーバルキャットのケビンが亡くなっております。同じく9月に、エゾモモンガのタロウが亡くなりました。数年前、滑空訓練で人気を博していた動物ですけれども、かなり長寿でして、長いこと頑張ってくれたのですけれども、最後は大往生となりました。しかし、タロウの子どもたちがすくすく育っております。

10月にニホンザルのぎん次という個体が亡くなっております。

11月に入りまして、エゾリスやエゾユキウサギ、エゾモモンガが釧路動物園や旭山動物園に転出しております。また、11月中ごろにはニホンザルのまる子という個体が死亡しております。

12月、先々週、エランドのフィアということし生まれの個体でして、先ほどご報告したエランドが生まれたという個体とはまた別になりますけれども、とべ動物園に転出しております。

以上、重立った動物園の動きについてご報告申し上げます。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、この件に関しまして、何かございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 それでは、今回用意していただきました議題は、これで終了いたします。

全体を通して何かございますでしょうか。

○矢橋委員 先ほどDVDを拝見しましたが、出てきた女性はどのような方ですか。

○事務局(佐々木経営管理係長) ANAのキャビンアテンダントです。

○矢橋委員 私は、ああいうものが非常に大好きです。そういうものが好きな人は少なからずいるはずですよ。あれが機内だけでしか見られないというのは非常にもったいないので、ユーチューブでも一般的に見られればいいですね。ユーチューブにはアップされていないのですか。

○事務局（岡本） 園内で流すことだけは了解を得ております。著作権があるのです。

○矢橋委員 もったいないですね。

○成田委員 動物園では流していいんですね。

○事務局（木村経営管理課長） 園内では大丈夫です。

○矢橋委員 あれを見て来る人がいるわけだから、園内で流してもそれほど意味はないのではないのでしょうか。

○事務局（小山調整担当課長） ANAのサイトを見ましたら、まだアップされておられません。

○矢橋委員 また、先ほどのアニマルファミリーの件です。あれは、シロクマなど種類を絞っているのですね。私はゴマファザラシを希望する言っても、対象でなければだめなのですね。

○事務局（木村経営管理課長） そうです。今はそういうふうになっております。

○矢橋委員 私は、ゴマファザラシのエフが非常に大好きで非常に思い入れがあるのです。会社経営などに行き詰ったらエフ師匠に相談に行くのです。そういう人も少なからずいると思いますので、もったいないと思います。エフ師匠だったら、私は1万円でもと思います。

○牧野委員 結局、亡くなったときのことを考えているということですね。

○事務局（小山調整担当課長） ただ、現金だけではなくて、スイカ1個などの寄付もよくあるのです。例えば、エフに普通のパウンドケーキを、ということは普段食べないためいただけませんが、食べ物は基本的に受け付けております。

○牧野委員 今回、クリスマスのイベントで、13日から皆さんがキャップをかぶっていますが、あれは毎年やっていらっしゃるのですか。

○事務局（岡本） 去年からです。

○牧野委員 あれはいいですね。飼育員がサンタの帽子をかぶっていますが、すごくインパクトがありましたね。

また、たまたま孫と一緒にクイズラリーをやりました。残念なのは、ただ置いているだけなのです。興味を示す子は持っていくのでしょうかね。何が言いたいか、あのクイズの中身は、大人だったら答えを書いてしまおうと思うのです。しかし、全部に番号があって、現場に行かなければわからないクイズラリーなのです。それで、ああ、考えているなと思いました。否応なしにそこに行かなければいけないのです。ああいったものは、子どもたちが大人を引っ張ってでも行けるように積極的に子どもに手渡ししてあげると、動く範囲が違ってくると感じました。私は答えを書こうと思ったら番号しかないので、現物を見なければ回答できないということで、すばらしいアイデアだと感心しました。子どもはそちらのほうが優先になりました。見たいものを最初に見て、あとはクイズラリーの動物を見に行くという動きを示したので、そんなことも一つのアイデアなのだろうと感じました。

○金子委員長 ありがとうございます。

今回の議題にかかわらず、そのほかにご要望やご意見はありませんか。

○成田委員 円山動物園では、ボランティアの登録がたくさんありますね。ボランティアはどのような年齢層なのかわかりませんが、ロコミのキーパーソンみたいな方だと思うのです。ですから、外に広報するということが、ボランティアの人の力をかりることも考えられるといいかと思えます。ボランティアに何かをお願いするときには職員が必ずいて、ケアをしないといけないので、負担はかかるかもしれません。ただ、そういう方々にご協力をいただけたらいいかと思いました。

○金子委員長 ありがとうございます。

そのほかにかがですか。

○河原委員 12月は、クリスマスもあつたり楽しそうだと思います。私もサンタのイベントに行きたいと思いましたが、行けないという気持ちになります。それは、はっきりと時間を指定しなくてもいいのですけれども、開園から閉園までは寒いからいられないのです。冬ときは、開催する時間のヒントがあればうれしいと思って拝見していました。

それから、先ほど交通渋滞についてのお話が出ていましたね。きょう来るときに、地下鉄駅から歩いてきたのですけれども、車ではなくて公共交通機関を利用したときには、年に1回でも2回でも特典があればと思います。特に、冬です。きょうは凍っておりましたので、真っ直ぐの道を歩いてくるのはきょうが会議でなければ、私は動物園に来るかなと思いました。ですから、渋滞の緩和をしつつ、そういう特典があればいいと思いました。

また、北海道神宮にお参りに行くときに地下鉄を利用することが多いのですけれども、近いから動物園に行ってみたいと思ったことはあります。しかし、どちらの方向に行ったら動物園かが意外とわかりづらいのです。ただ、神社敷地内に動物園の看板を置くわけにもいかないと思います。

神社にお参りに行った後に動物園に見学に行つて悪いことはないのですけれども、ハテナがついてしまうのです。動物園の行き方がいろいろな出口から出てもしっかりわかるようでしたら、せっかく来たのだから動物園に行つてみようという気持ちになると思うのです。しかし、看板が目に入りませんでしたので、ご検討いただければと思います。ついでと申したら申しわけないのですけれども、せっかく円山に来たので、動物園に寄つて帰りたいという方がふえると思います。

また、白クマラーメンがありますが、あれは食堂の中では食べられないのですか。

○事務局（木村経営管理課長） そうですね。

○河原委員 スーパーに売っているものは、ほかのものよりちょっと高くて手が出ないのです。動物園という場所に来て、つくっていただければ、ほかの値段より高くても食べてみたいと思います。そういう戦略はないのですか。

○成田委員 食品衛生上の何かがあるかもしれませんが、白クマラーメンはすごく売れているのです。ですから、イベントのときにうまいことやつて、一つを丸々1人に出すのではなく、味見的にでもちょっとずつやり、おいしいとわかれば、市民が誰かにプレゼント

することもふえるかもしれません。

○矢橋委員 今、地下歩行空間で、どんべえをやっていますね。この間、天ぷらそばを食べてきましたけれども、おいしいのです。ああいうところで食べるから余計においしいのです。

○成田委員 冬にやったら、すごくおいしいと思うのです。そういうことがイベントのときにできたらいいですね。

○河原委員 出始めたときにテレビのニュースで見たのですけれども、あれは限られた人が選ばれていたのかはわかりませんが、試食をされていて感想を言っていましたね。私も一緒に行ってみたかったと思いました。そこにも力を入れていただければと思います。試食からまずはとなると思います。食べた方からはおいしいという感想は聞いております。

○牧野委員 金子先生の酪農学園で作ったアイスクリームもおいしいですよ。

○金子委員長 アイスクリームも置いてもらっていますからね。そういうものはいいかもしれませんね。

○事務局（村山みどり環境担当局長） 今回グルメマップをつくりました。また、試食については、お店の中で出すのは問題ないと思います。

○成田委員 でも、おしるこをプレゼントもありますからそれと同じではないのですか。

○事務局（村山みどり環境担当局長） ちゃんとしたものを外で出すときには保健所がうるさいのです。

○成田委員 1食の提供はだめだけれども、試食だったらいけるのですね。

○事務局（佐々木経営管理係長） 春に、しょうゆラーメンの発売記念のときに大々的にイベントをして、3月に飼育員の感謝イベントのときに試食のサイズにして200人にお配りしました。しかし、その日はちょうど吹雪いていて、拡散し切れませんでした。

○河原委員 初耳です。知っていれば、来たかもしれません。

○金子委員長 試食案も入れて次回をお願いします。

○牧野委員 もう一つです。蹄鉄ですが、馬の毛とセットになっているのですか。

○事務局（佐々木経営管理係長） 別々です。蹄鉄は朝一に配って、馬の毛は午後から配ります。それだけを持って帰るのではなく、できるだけ園内を見てもらえるようにしております。蹄鉄は、裸で渡さず、袋で渡して、いわれなどを書きました。それにはJRAの宣伝も入れました。JRAに協力をいただいて、かなり前から集めていただきました。一度きれいに磨いていまして、レプリカではなく本物です。歩いた跡があるのです。

○牧野委員 これは、巳年の特典の日とこのプレゼントの日があるのですね。

○事務局（佐々木経営管理係長） 去年にもらえなかった人へ、日を分けています。

○牧野委員 へびからうまにうまくバトンタッチということで、企画しているのですね。馬の毛のラミネートには「うまくいく」と書いてありますね。

○成田委員 鳥の羽もプレゼントしてもらえると喜ぶと思います。

○牧野委員 今回は干支でやっていますからね。

○事務局（佐々木経営管理係長） 冬に動物クラフトをやっておりまして、そういうときに来ていただいて、参加した方にはクジャクの羽やハクチョウの羽などをラミネートしてプレゼントしております。

○金子委員長 だんだんお話が盛り上がってきましたが、事務局にお返ししたいと思いません。

3. 閉 会

○事務局（木村経営管理課長） 次回の会議についてです。

アニマルファミリーのお話もごございますので、年度内にもう一度開催したいと思っております。時期的には、2月から3月になろうかと思えます。日程等につきましてはご照会させていただきます、改めてご連絡を申し上げたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、お忙しいところ、また、足元の悪い中においでいただきまして、どうもありがとうございました。

次回もよろしくお願いいたします。

以 上